



ハワイ旅行の食事情



6年振りの海外旅行は新婚旅行でハワイへ。

クローン病の私にとって、海外生活で気になるのは食事。エレンタールを国外へ持ち出し、水を確保できるのか？ インターネットでも情報が得られなかったので、当日は不安ながら家を出た。機内持込制限で飲料水の持込は微量に制限されているため、持ち込まなかった。エレンタールは10日分の30本（減量）を別荷物で用意した。

セントレアに到着して1本飲み、出国審査前にさらに1本飲んだ。冷水で解け具合が悪かったが、フードコートにて無料の飲料水が手に入った。

JALカウンターでのチェックインは念の為に壊れ物指定をして、問題の出国審査の手荷物検査に向かった。ここで手荷物にエレンタールを1本持ち込んでみることにした…一瞬、緊張感に包まれたが、検査員が見守る中で、X線・金属・手荷物検査など簡単に通過しまったのだ。エレンタールを機内で飲む気分ではなかったため、売店で飲料水を買って、エレンタールを飲み終え搭乗ゲートに向かった。

機内食と言えば、季節や時間帯、距離や行き先で違う、ユニークな食事が楽しみではあったが、今回からは、食事内容の変更サービスを利用することにした。事前に航空会社に電話連絡もしくはインターネット予約すれば、十何種類から選択できる事を知り、今回は“消化の良い食事”を往復で指定した。その写真がこれだ。



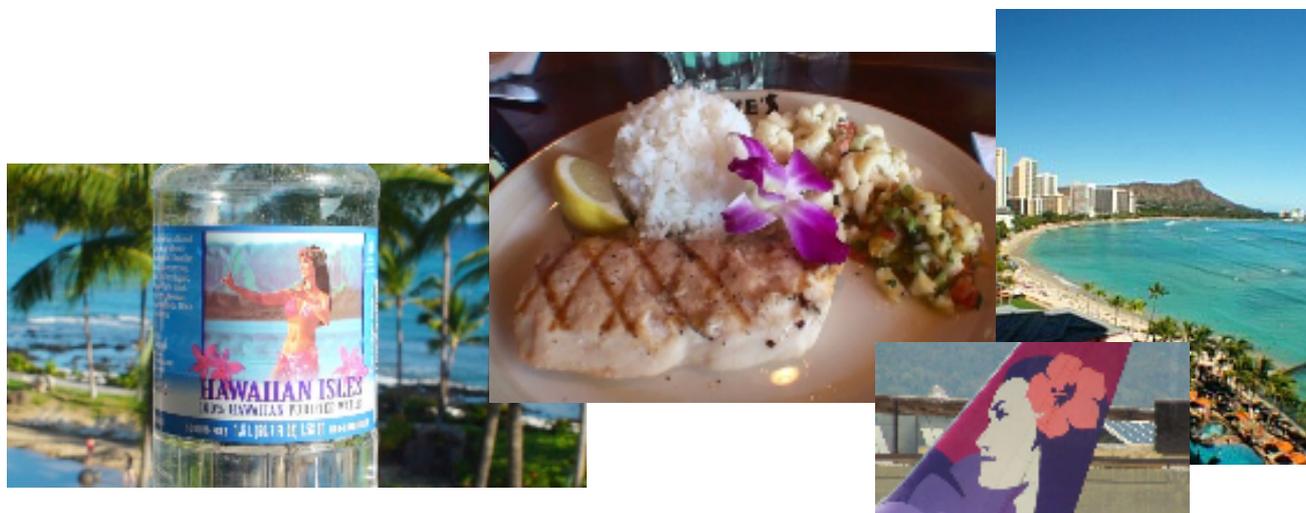
見て驚くことに、どれも予想以上にボリュームがあることだ。ボイルされた野菜類は味付けはほとんど無く、塩・胡椒を掛けて食べる。一部にチーズやクリームソースが使われていたが、潰瘍性大腸炎患者には満足できそうな内容であった。サンドイッチとフルーツのメニューは、一般より豪華であった。

セントレアからホノルルまでは6時間程で到着した。寝る間も無いぐらいだが、時差ボケや体調管理には気を付けたい。

6月のホノルル空港（初めてのハワイ）は、少し蒸し暑かった。入国審査は人の列で渋滞したが、ここも難なくエレンタールを持ち込むのに成功した。

初日の食事は、昼食から始まった。ABC マート（コンビニ）にて食パンと水を買ひ、水は店で一番安い品を選択した。さて問題の味は？...エレンタールの溶け具合は良い、これは期待できそうな予感！！

まずは一口、味を確かめた。するとビックリ、うまいではないか〜溶け具合が良く、味が薄くなるまろやかな水であった。ハワイでは美味しい水が安く購入できることがわかり安心した。



外国の食事はほぼ洋食になるが、ワイキキには日本食レストランもあり日本語メニュー表示も多い。お薦めはビーチバーでの食事。メインのおかずは焼き魚にご飯を付けると良い。夕食は、のんびりフラショーを見ながらワイキキ気分に入るのも良いだろう！

またレンタカーがあれば都合が良い。スーパーマーケットで食材や総菜を買い込み、ホテルのラナイから見えるワイキキの夜景を楽しみながら、プライベートな食事をするのもロマンチックである。お総菜の味付けは、日本人にも合うが量は多く、2人で分け合える。

今回の旅行で、国内線搭乗チェック時に水を持ち込んでしまうミスをした。搭乗チェック前にエレンタールを飲み忘れたのが原因で、取り調べを受けた。

まずX線身体検査を2回受け、次に手荷物を調べを受けた。水の入ったペットボトルを取り出され、いくつか質問された。病気の事や食事が出来ないことを伝えた。

場所を移動して、液体検査を受ける。ハンドスキャナーのような機械で成分を調べているようだ。途中で、ペットボトルを放棄することを告げたが却下され、検査結果が出るまでは10分ぐらい待たされた。安全が確認されると持込許可が出され、検査員は姿を消した。面倒な経験から、次回からは間違っても水を持ち込むことは絶対に避けたい。

帰りの機内食で、小さなミネラルウォーターが付いてきた。成分を見ると全て0%表示。このタイプの水は試したことが無かったので、帰宅後に試してみた。結果は、溶け具合は少し悪く、後味が残るような感じがあった。味を成分だけで判断はできないと知った。

ハワイは、空港検査時に水を持ち込まなければ問題なく入国でき、現地で良い水に巡り合え、また食事にも困らずに楽しむことができる所であった。ハワイなんか・・・と言う固定観念から開放され、温暖な気候や治安、近さからいっても、日本人が好む場所の意味が理解でき、また近いうちに行きたいと思った。

